

必ず道は開けます！
あなたの力ならばどんな障害も乗り越えられます。いつも応援しています。

%company%
%free1%
%free2%
%name_sama%

◆中小企業経営者列伝、第12弾。4回シリーズ

従業員の半分に辞められ倒産危機！からのV字回復！！
創業97年、高校中退社長のリアル雑草魂奮戦記

松本建設 株式会社
代表取締役 松本 敬介氏

- ◆第1回 青天の霹靂！お小遣いがもらえない
- ◆第2回 従業員の半分为退職！嵐の中の船出
- ◆第3回 談合事件発生！訪れた大チャンス
- ◆第4回 これからも航海は続く！新たな地平を求めて

~~~~~

~

- ◆第1回 青天の霹靂！お小遣いがもらえない

ある日、母に社長室に呼ばれた。

実家の土木会社で働いていた私は  
「なんだろう、100万円くらいお小遣いでもくれるのかな？」  
と、お気楽に社長室に入ったとたんに、  
母が私に言った言葉は

「社長が借金を残して逃げた、もうこの会社はダメかもしれない…」

突然の出来事に  
「なぜこんなことになってしまったのか」  
「これからどうなってしまうのか？」  
そんな言葉が、ただただ頭の中でぐるぐる回っていた。

1977年栃木県の真岡市で

5代続く土木中心の建設会社の6代目として私が生まれたときは初孫の惣領息子ということで、一族を上げてお祝いに包まれました。それはとても盛大だったそうです。

なので小さい頃は何不自由なく育ったのですが  
婿である父と母が小2の時に離婚。

ただ私には「お父さんは出張に行ってるのよ」と教えられ  
うすうすは「なんかおかしいな」と思いながらも  
一族の中で愛情に包まれて育ちました。

そりゃそうですよね、ずっと家に居ないんだから。  
で、会社は生え抜きの従業員を社長に据えてやっていました。

一族の愛に包まれて

中学まではまあ成績もよく、学校も良いところだったので  
かなり優秀な先輩や同級生にも恵まれて、  
当時流行りのスノーボードばかりやっていました。  
高校に入ってからその付き合いは続き、今でも付き合いがあるのですが…

父がいないこともあり、かなり自由に育った私は  
家業のこともあり工業高校に入学しました。

で入ってみると周りは悪い連中が多いわけですよ、元気のいいのが。  
で、私も暴走族の集會に顔を出したりお決まりのパターンです。  
そちらはそちらで友達がいっぱい出来ましたね。

優秀で、学歴を極めて社会の表舞台で活躍していく人たち。  
それとは別に、生命力があって意志の強いエネルギーに満ち溢れたグループ。  
当時から私の中で2つの世界観が矛盾なく存在していました。

それで高校2年の時、出席日数が足りず補講があったのですが  
「ま、何とかなるでしょ」と  
中学の先輩達に誘われて泊りがけでスノーボードに行ってしまう  
ダブリが決定し、高校を退学しました。

まあ、地元では名門企業の跡取り息子ですから  
先生方からは何かと目を掛けていただいていたのですが

それが甘えに繋がり裏目に出てしまいましたね。  
退学が決定したときは校長先生は泣いていました。  
今考えると悪い事しましたね。

それで遊んでいるわけにもいかず、千葉県の土木会社に5年間修行に行かされました。

従業員が6人しかいない、小さなファミリー的な会社で面白かったのですが「推進工事」という、トンネルシールドの小さいバージョンみたいな下水道工事なんかで使われる特殊な工事をやっている会社で地表を掘り返さないのが規制に引っかからないんです。

事前調査に基づいて「刃や機械」を変えるなど技術がすごくて中堅建築会社が集まって出資して作った、レベルの高い先進的な会社でした。

この会社に行ったおかげで、案件に対する考え方とか先進技術を取り入れる進取の気質が身についたと思いますしそれらの知見が、先端技術を導入するなど現在に繋がっています。非常に貴重な経験でしたね。

一定の技術も身につけて修業期間が終わったら、実家に帰って入社。家業を手伝いながら定時制高校に通いました。なので正確には中卒ではないんですがね。24, 5歳で卒業しました。

当時は、仕事は可もなく不可もなく。最先端の技術を持っていますから簡単に感じました。で、趣味のバイクいじりに没頭しました。

またアメ車(ローライダー)も大好きでクレイジークローズというチームに所属していました。

そんな生活態度だったので、社内では相手にされていませんでしたね。でそんな時に、冒頭の「会社飛んじゃう？」の話です。

「お小遣いは無しかぁ」と思っていたらこれからとんでもない苦難の道を進むことになるわけです。

いかがだったでしょうか？  
楽しんでいただけましたか？

次回は

◆中小企業経営者列伝、第12弾。

従業員の半分に辞められ倒産危機！からのV字回復！！

創業97年、高校中退社長のリアル雑草魂奮戦記

松本建設 株式会社 代表 松本 敬介氏

◆第2回 従業員の半分为退職！嵐の中の船出

をお届けいたしますので、楽しみにしててくださいね。

それでは次回、またお会いしましょう。

著者：(株)I&C・HosBiz センター

編集長：岩下 一智 MRC

~~~~~  
■参考図書■Amazon 電子書籍

渋沢栄一翁の 合本主義「義利合一」の時代がきている

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

*著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本 靖夫

~~~~~  
本記事に対するご質問やご感想は下記アドレスまでお願いいたします。

[heart\\_gaia\\_gi@hosbiz.net](mailto:heart_gaia_gi@hosbiz.net)

~~~~~ZOOM セミナーの予告~~~~~

「オポティニティ・ZOOM セミナー」

竜一寸にして天をうかがう！！

今は小規模企業であるが

【売上高:10億円以上・従業員:20名】越えを目指す社長にお勧めです。

経営者自らも「ワクワク」して企業経営を実戦し、

従業員をはじめとするステークホルダーだけでなく
「地域にも貢献する」経営を構築する方法についてお話しいたします。

■**テーマ：**

「企業の器」を大きくするには「経営者の器」を大きくすることが早道！

①「理念経営道」は、「経済活動」と「精神活動」の大調和

＊企業経営も「宇宙の真理」に従う ＊50年間500社の経験知から・・・

②「理念経営道」の実戦例＝その①＝運送業・創業経営者

③「理念経営道」の実戦例＝その②＝コロナ禍 4年間赤字から、中小企業への「進化・発展・持続」の道へ

④「理念経営道」の経営計画の策定と実戦のポイント

■**参加費：無料**

■**日時： 24年06月17日(月)16：00～17：30**

*お申込みは「 <https://rinenkeieishi.net/contact/form.php> 」まで

~~~~~  
バックナンバーは下記の URL を確認してください。

[https://rinenkeieishi.net/mail\\_magazine/hayabusa.php](https://rinenkeieishi.net/mail_magazine/hayabusa.php)

~~~~~ 次回予告 ~~~~~

皆様のコメントを励みにして、航海を続けていきますので、重ねてご支援ご鞭撻を
よろしく申し上げます。

次回、第 651号は

◆中小企業経営者列伝、第 12 弾。

従業員の半分に辞められ倒産危機！からの V 字回復！！

創業 97 年、高校中退社長のリアル雑草魂奮戦記

松本建設 株式会社 代表 松本 敬介氏

◆第2回 社員の半分が退職！嵐の中の船出

を 24・5・17(金)にお届けいたしますので、
楽しみにしててくださいね。

なお内容は予告なく変更する場合がありますので、ご承知ください。

■LittleBiz 企業・中小企業で働く人々や、経営者が幸せでなければ、
私たちは「世のため・人のため」になれない。
とクルー一同尽力しております。

■平本靖夫、50年の経営支援家人生の集大成 第1弾！

『合本主義「義利合一」の時代がきている』

Amazon kindle にて発売中！！ 2000円

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

最後までお読みいただき感謝いたします。本当にありがとうございます。
では、また次号で元気にお会いしましょう！

◆発信日・・・毎週・金曜日

◆発行責任者・・・Captain 平本靖夫

◆編集長・・・岩下一智・(株)I&C・HosBiz センター 執行役員
マーケット・クリエーター(MRC)・・・CST 開発推進責任者

プロフィール

<https://rinenkeieishi.net/corporate/index.html>

Facebook

<https://www.facebook.com/yasuo.hiramoto>

*お問い合わせは「<https://rinenkeieishi.net/contact/form.php>」まで

ご愛読ありがとうございます

著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本靖夫

プロフィールは

<http://rinenkeieishi.net/corporate/index.html>

◆はやぶさ・に関するお問い合わせ・質問は

メールアドレス：kazu_zohan@hosbiz.net

発行責任者：Captain 平本靖夫、

編集長：岩下一智 MRC